

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.240

2025. 10. 3

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

**「税金は暮らしの拡充に 戦争準備の軍拡は中止して、
憲法、平和、いのち、暮らしを守る政治への転換を求める請願署名（略称＝大軍拡反対
請願署名）」に、ご協力ください！** ◇署名用紙が不足の場合は、岩手県生協連までご連絡ください。

被爆80年・核兵器なき世界を—水沢九条の会や胆江労連等で「平和のつどい」開催—



8月17日に、奥州市Zホール展示室で行われた「平和のつどい」は、100人を超える参加者で平和への熱い思いを共有しました。

主催者挨拶で水沢・憲法九条をまもる会代表の瀧澤昭弘
実行委員長は、平和のつどいを継続して開催してきたことの
意義と被爆80年の今年、核兵器禁止条約の批准を日本
政府に求める大きな運動をと訴えました。スライドによる
絵本「とばないひこうじょう」の読み聞かせの後、穴戸春

雄支部長が戦争の愚かさを象徴する小山飛行場建設について講演しました。

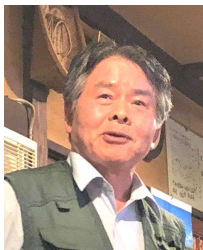
続いて、岩手県被団協の下村次弘さんが講演。広島への入市によって被爆した父親が自
らの被爆を公表したのが、下村さんが36歳の時でした。公にしてこなかった父親の心情について話し、政府が被
爆者に『受忍』を強いてきた結果だ、と批判しました。被団協と関わってきた経緯と県内被爆者の現状、感動的だ
ったノーベル平和賞受賞式のことを語り、「核兵器なき世界」の実現に向け、一緒に運動をと熱く呼び掛けました。



お知らせ

被爆・戦後80年平和を考える学習会 伊藤千尋さん来盛！

「今、なぜ9条の碑を建てるのか～基地の中にも被爆の丘にも～」



11月8日（土）13：30～15：30

岩手県高校教育会館 大ホール（盛岡市志家町）

参加締切：10月31日 参加無料

主催：9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会

参加申込・お問い合わせ：岩手県生協連

◇参加申込
フォーム ⇒



◇ライブ配信も
実施します ⇒



コラム

— 国米国合衆国政府よ、国際社会に対して“何を画策”しているのですか？

国際社会は同政府に対してもっと“諫言”すべきです！—

先ずは報道を見てみましょう。

【ワシントン＝時事 ‘25・9・7しんぶん赤旗】 —米軍、北朝鮮上陸作戦に失敗 米誌報道 19年
決行民間人殺害か— 米誌ニューヨーク・タイムズ（電子版）は5日、米海軍特殊部隊 SEALs（シールズ）が
2019年初頭、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党総書記（当時は委員長）を盗聴する電子機器を仕掛けようと、北
朝鮮沿岸で極秘の夜間上陸作戦を決行失敗していたと報じました。…

シールズは原子力潜水艦で北朝鮮近海に移動。船の往来が途絶えた時間帯を狙い、2台の小型潜水艇で沿岸
に接近して上陸しました。…

米国の衛星情報では作戦後、現場付近で北朝鮮軍の活動が活発化したといいます。

【ニューヨーク共同 ‘25・9・7岩手日報】 同趣旨の記事を掲載。

秘密裏の“軍事作戦”の外交交渉で良いのか。同国政府の外交にはあまりにも“常套手段”化しています。
未だ帝国主義の時代の“外交”。コラム子はこう言うことは中止し、“外交交渉”で行うよう、国際社会は同国
政府に対して“諫言”すべきと思っています。（T）

戦争も核兵器も NO！戦争の悲惨さと平和の大切さを学び伝えます - いわて生協一

いわて生協では、「子どもたちに平和な未来を残したい」「わが子を戦場へ送りたくない」という思いから、戦争の悲惨さや被爆体験を風化させず語り伝え、平和の尊さを親子で考えあう取り組みをすすめています。

平和の種を蒔けるよう体験を伝えたい—8/4～6 ピースアクション in ヒロシマ 参加報告—



ヒロシマに降った「黒い雨」について取材している小山美砂さんが話してくれたのは、ヒバクシャとして認められず、置き去りにされたヒバクシャたちの実態でした。原爆投下直後に広島、長崎に降った「黒い雨」は、爆風で巻き上げられた泥や煤が放射性物質を含んだ雨となり、川の水が黒くなるまで降ったのだそうです。当時、生あたたかくて気持ちがよく、シャワーのように浴びた人や、口を開けて飲んだ人もいて、放射性物質を体内に取り込む内部被曝が一番の問題になっています。これは体の中にピストルを入れ、体の中から絶えず撃ち抜かれている状態のようだと言っていました。

内部被曝した方々は、年月が過ぎる間に次々と癌を発症したり、身体に異変が起こっています。現在も、国が認める範囲の外側で「黒い雨が降った」と証言している住民たちが集団訴訟を起こしています。これは生活や健康、命に関わる切実な問題であり、国の救済対象から外れた人たちは、病気と貧困の負のスパイラルに陥っている状態だということも話してもらいました。

「黒い雨」によって被爆したにも関わらず、原爆被害も自分の証言も信じてもらえず、今なお苦しんでいる人たちがいるという状況にショックを受けました。自分の言葉を信じてもらえないというのは、どんなに苦しいことでしょう。原爆の被害者は、国が把握している数より確実に多いのです。

核兵器の問題は、過去のもので、遠い国のことでもありません。今現在の問題であり、私たちの問題として向き合っていかなければなりません。原爆投下により被害にあった人たちの生き様やストーリーを聞く中で、改めて核廃絶に向けての取り組みを強める必要があると感じました。体験の共有が共感を呼びと私は思います。一人ひとりに平和の種を蒔けるよう広島での体験を伝えていきたいと思います。（北上コープ理事 鈴木貴恵）

「子ども平和新聞」は、いわて生協 HP、またはこちらからご覧いただけます。⇒



被爆者の思いをつなぐ、平和の願いを形にした4日間—親子ピースアクション・平和のつどい開催—



戦後 80 年を迎え、日本被団協ノーベル平和賞受賞記念「あの日を忘れず未来へつなぐ平和の願い」と題する事業が、8月6日～9日盛岡市中央公民館で開催されました。岩手県被団協・岩手県・盛岡市共催の事業は、被爆者の霊を慰め、再びあの悲惨な体験を繰り返さないよう、核兵器廃絶と世界平和の実現を願うものです。

今年は、親子で平和を考えるきっかけにしてほしいと、いわて生協が担当して「親子ピースアクション」を実施。輪投げや、折り鶴と「せんそうほうき」のストラップを作るクラフトコーナーを楽しんでいただきました。会場には、いわて生協の多くの組合員から寄せられた平和へのメッセージを形にした展示物が数多く飾られました。石割桜の花びらに見立てたメッセージや、折り鶴で作られた平和の虹など、本当に素晴らしく、組合員のみなさんの平和への強い思いが伝わってきました。また、組合員手作りの平和かるたを使ったかるた大会も、一日に数回開催。多くの親子連れが訪れ、楽しんでくださいました。

8月9日には高松の池で「平和のつどい」を行い、約 40 名が参加しました。平和クイズの後、望み祈念像に千羽鶴を捧げ、長崎に原爆が投下された 11 時 2 分に合わせ黙祷しました。その後、「ピースアクション in ヒロシマ」に参加した親子の報告や、来年広島を訪れる予定の大学生の思いを聞き、参加者たちの平和への願いを感じ取ることができました。



8月6日から9日の期間中、こうした企画に多くの方が訪れてくださいました。工作などの楽しい企画をめざして気軽にいらした方も、「戦後 80 年だったんだ」「岩手に被爆者の方がいるんだ」と感じてくださったと思います。数々の平和へのメッセージや、平和かるたに残された多くの言葉の中に、少しでも心に残ったものがあつたに違いありません。私にとっても、一生忘れられない夏となりました。（常務理事 佐藤愛理）